

4 トピックス（普及活動情勢報告）

【4月分】

収量・品質向上にむけ栽培管理を徹底しよう ～JA土佐れいほくカラーピーマン部会勉強会～	
	3月19日、JA土佐れいほくカラーピーマン部会は、JA本所で勉強会を開催し、16人の生産者が参加しました。 普及所からは、定植前後の管理や土壌還元消毒による病害防除について説明しました。参加者からは、「主枝主体に収穫する誘引方法を現地で詳しく知りたい」という声がありました。 今後、普及所はJAと連携して、増収にむけた草勢維持や誘引方法を徹底するため指導していきます。
熱心に勉強する部会員	

平成30年度シシトウ栽培にむけて早めの準備を ～栽培講習会を開催～	
	3月27日、JA土佐れいほく園芸部シシトウ部会は、JA本所、同大田口支所で栽培講習会を開催し、20人が参加しました。 普及所は定植前後の栽培管理（基肥施用、支柱の設置など）、本年度から取り組む県版GAPについて説明しました。 部会員からは、「昨年の夜間は、低温となって活着が悪くなかったので、初期生育が悪い時の対処方法を教えて欲しい」「GAPの点検シートは項目が多くて大変だが、食品を扱っている以上必要だ」といった声が出されました。 普及所は、生育初期の灌水・施肥管理、温度管理を指導するとともに、GAPの取組について部会員の意識が向上するよう支援していきます。
真剣に耳を傾ける部会員	

地域の担い手として ～(株)れいほく未来との打合せ～	
	4月4日、普及所で(株)れいほく未来職員1人、JA職員1人、普及所職員6人が(株)れいほく未来の園芸事業や情報発信等について協議しました。 米ナス、パプリカを中心とした雨よけ（ハウス）栽培の計画と状況を確認する中で、「天敵の活用に関する研修生の理解が不十分」「共同作業による作業の効率化はこれから」等の課題が明らかになりました。 また、(株)れいほく未来が地域の担い手として認識されるよう、継続的にJAの広報に情報発信していくことになりました。 普及所は、今後も(株)れいほく未来が地域を支える担い手となるよう支援していきます。
栽培等の対応策を協議中	

青果ユズ拡大生産にむけて ～病害虫防除技術研修～



研修の様子

4月5日、普及所会議室で本年度から青果生産に取り組む3人を含む5人を対象に、病害虫防除技術研修を行いました。

研修では被害の実態や主な病害虫の見分け方、園地の排水対策や被害枝葉の除去等の予防対策、どの農薬を、どのタイミングで、どう散布すれば効果的に防除できるのかについて説明しました。

無農薬の酢玉生産から、初めて青果生産に取り組む農家は「防除暦どおりに管理し、青果が儲かることを近所の人に伝えたい」と話し、研修資料を持ち帰りました。

ユズの補完品目であるゼンマイの収穫が始まり、参加者は予定の半分でしたが、今後に期待の持てる研修となりました。

JA営農指導員と指導体制やGAPの推進について協議



「GAP 通信」を確認する
営農指導員

4月9日、JA 本所で JA 土佐れいほく営農指導員と普及所が組織する営農連絡会を開催し、平成30年度の指導体制等について協議しました。

普及所からは GAP の理解を深めるために生産者にむけて「GAP 通信」を発行し、優良事例を紹介することなどを提案し、了承されました。

参加者から「作付け前の点検結果では、生産者間の意識差が見られる。問題点を指摘するのではなく、生産者に気づいてもらうことが大切」という意見が出されました。

普及所では GAP に対する理解が進み、取組が生産者のメリットにつながるよう支援します。

甘長トウガラシの栽培管理指導を実施



栽培管理について指導中

4月10日、新たに甘長トウガラシの栽培を開始する大豊町と土佐町の生産者のほ場で、定植前後の管理について指導しました。

甘長トウガラシは嶺北地域の有望品目として期待されており、今年度から新たに3人の生産者が栽培を始めています。

生産者からは、粒剤の施用方法等の質問が出され、甘長トウガラシ栽培にむけて意欲を燃やしていました。

今後、JA と協力して研修会の開催や巡回指導を行い、生産者の栽培への理解が深まるよう、支援していきます。

H30年度の作付計画を共有 ～第1回クルベジ定例会の開催～



本年度最初の定例会

4月5日、大豊町農業センターにおいて、（株）大豊ゆとりファーム職員5人と普及所3人が参加し、H30年度の作付計画と現在の栽培状況について確認しました。

普及所からは、雨よけ栽培ほ場での緑肥栽培による除塩と有機物の施用効果について情報提供し、緑肥作物による土壌改善について提案しました。

H29年度からクルベジ定例会で栽培計画の検討を重ねたことで、今年度は収益性を考えて栽培品目が集約され、作業も計画的に進められています。

今後も2か月ごとに定例会を開催し、計画的栽培、目標とする収量が確保できるよう支援していきます。

今シーズンの花き出荷にむけて ～花き部会が現地検討会を開催～



栽培状況を確認するメンバー

4月12日、JA土佐れいほく花卉部会は、現地検討会を開催し、部会員4戸（8人）が参加しました。現地検討会では、オリジナルユリ品種‘ノーブル’やトルコギキョウ等の栽培ほ場を巡回し、意見交換を行いました。

普及所からは、本年度実施予定の実証ほの設置計画について説明し、‘ノーブル’の振興にむけて産地ビジョンの作成を提案しました。

農家からは「‘ノーブル’には、数種の新品種があるが、限られた栽培面積の中で、消費地が求める品種を安定的に出荷していくことが重要である。今後、品種構成や球根の確保方法等の方向性を部会内で協議していきたい」などの声が聞かれました。

普及所では、‘ノーブル’の産地ビジョン作成を支援するなど、産地の維持・発展にむけ活動していきます。

【5月分】

中山間地域の大規模土地利用型法人への栽培支援 ～第1回勉強会の開催～



野菜の基礎技術を学ぶ

4月26日、本山町下津野にある（株）カワムラファームで、役員と従業員の4名を対象に露地野菜の栽培に関する勉強会を開催しました。役員1名と従業員2名は新規就農者であり、普及所からは主に野菜栽培の基礎について説明しました。

参加者からは、「学校で習ったことの復習になった。基礎的な話でわかりやすかった」との感想が聞かれました。

次回は、病害虫対策と併せてほ場での栽培技術について勉強会を予定しています。今後も継続して開催し、若手職員の資質向上に向けて支援していきます。

ユズの青果生産にむけて～現地指導～



せん定の仕方を指導中

4月27日、大豊町のユズ生産ほ場で、本年度から青果生産に取り組む2戸の農家に、病害虫防除とキズ果防止のための夏期せん定などについて指導しました。

2戸とも、これまでは無農薬の酢玉生産であったため、防除機の種類や使い方など基礎からの指導でしたが、昨年指導した低樹高仕立への改良効果を実感していたためか、熱心に耳を傾けていました。

技術の習得には、実際の樹づくりや管理作業を経験する必要があるため、青果部会の役員にそれらの指導をお願いしています。

今後は部会活動への参加を呼びかけ、部会全体で支援していく体制にしたいと考えています。

嶺北地域園芸戦略会議で産地ビジョン等について協議



今年度の取組について協議

4月27日、JA土佐れいほく本所で園芸部役員、営農指導員と普及所25人が出席して嶺北地域園芸戦略会議を開催し、平成30年度の取組内容について協議しました。

事前にJA営農指導員と各品目の課題や問題点を洗い出し、塩類集積に起因する土壌病害虫対策の実証結果や新たに取り組むpFメーターによる適正な灌水量の実証について報告しました。

参加者から「pFメーターは畦に水があるかどうかの目安となる」という意見が出されました。

普及所では高齢化による生産者の減少をくい止めるため、農業で生活ができるように出荷量を増加させ、新たな担い手の確保につながるよう支援します。

JA土佐れいほくカラーピーマン部会現地検討会



青空の下で勉強中

5月10日、JA土佐れいほくカラーピーマン部会は、本山町大石で現地検討会を開催し、生産者17人が参加しました。

普及所は部会の課題となっている、病害対策や草勢を維持するための栽培管理、着果負担の少ない新品種の実証経過、GAPを普及するために優良事例等を紹介する「GAP通信」について情報提供しました。

生産者は新品種への関心が高く、現在の品種との違いについて熱心に情報収集していました。

普及所は課題解決にむけてJAと連携して部会活動を支援していきます。

イタドリ栽培の可能性を探る～土佐町松木野営農組合イタドリ巡回～



松木野イタドリほ場

5月14日、松木野営農組合員1人とともに組合員が栽培しているイタドリほ場6カ所を巡回しました。

松木野営農組合では水稻に代わる転作作物としてニンニクやサツマイモの栽培に取り組んでいます。今年からは試験的に組合員3人が協業品目として有望なイタドリ栽培を開始しました。

組合員からは「一部の芽の先端部が焼けて生育が遅れている」「今後は除草を中心に管理していく」など栽培状況を確認しました。

普及所では今後、追肥などの栽培管理について指導するとともに、作業時間や費用について検証していきます。

収量向上を目指して～シシトウ現地検討会～



実証試験(高接ぎ木)の状況を皆で確認

5月14～16日、JA土佐れいほくシシトウ部会は、大豊町、土佐町、本山町で現地検討会を開催し、26人の生産者が参加しました。

普及所からは、温度管理、整枝・誘引等の栽培管理とGAPの取組を周知し、青枯病対策として実証している高接ぎ木試験の進捗状況を報告しました。

生産者からは、「高接ぎ木の生育は慣行と比べてどうか、どこで育苗を依頼したか」等の質問が寄せられました。

普及所は今後、梅雨時期から増加してくる病害虫（黒枯病、斑点病、アザミウマ類等）の防除を周知するとともに、高接ぎ木の状況についても生産者と共有していきます。

今年もうまく作ってがんばるぞ！ ～JA土佐れいほく米ナス部会現地検討会～



栽培管理を学ぶ

5月17日、JA土佐れいほく米ナス部会は、土佐町で現地検討会を開催し、9人の生産者が参加しました。

普及所からは、灌水・追肥の適正管理や天敵の活用などを説明しました。参加者は、適正な施肥量を把握するために、定期的に土壌分析を実施することや、ゴマやスカエボウ等天敵温存植物を利用した天敵の定着促進について情報交換しました。

普及所は、今後も適期の栽培管理を徹底するため、JAと連携して部会活動を支援していきます。

新たな土壌消毒方法導入にむけて ～土壌還元消毒に関する研修会を開催～



担当者から説明を受ける参加者

5月18日、土佐町の花き栽培農家において、低濃度エタノールによる土壌還元消毒の実証ほを設置するとともに、土壌還元消毒の研修会を開催し、生産者や関係機関15人が参加しました。

研修会では、農業・食品産業技術総合研究機構の担当者から処理方法等の説明を受け、今後の技術導入に向けて情報交換を行いました。

普及所は、実証ほ設置や研修会の開催を調整しました。

農家からは「今回の方法は、夏秋期作型の花き産地でも導入できる可能性がある。今後、病害の抑制効果を確認して導入を検討したい」「土壌還元電位や処理前後の土壌病原菌密度を測定することで、処理効果が把握できて良い」などの声が聞かれました。

普及所では、今後も夏秋期作型の野菜・花き産地における土壌病害対策について、関係機関と連携して取り組みます。

【6月分】

お米を作る大切さを学ぼう ～小学5年生が田植えを実施～



田んぼで奮闘！

5月10日、おおとよ小学校は、大豊町杉で稲作体験学習（田植え）を行い、小学5年生、教員、大豊町役場など計18人が参加しました。

普及所からは、大豊町で栽培されている品種、水田の持つ様々な機能（洪水を防止する、土砂崩れを防ぐ、暑さを和らげる、心身を癒やす等）を説明し、稲作の重要性を伝えました。

田植え初体験の小学生も多く、最初はぎこちない様子でしたが、徐々に田植えにも慣れてきて無事‘黄金錦’5aを植え終わりました。

田植えをした稲は、9月末に皆で収穫し、11月に給食で食べる予定です。

今後も普及所は、食育活動の一環として農業の大切さを伝えていきます。

チームワークで米ナスの収量アップを目指せ！ ～(株)れいほく未来米ナスチーム会～



米ナスの作業内容を検討中

5月29日、土佐町の(株)れいほく未来で同社職員4人、普及所3人が米ナスチーム会を開催しました。

チーム会の目的は、(株)れいほく未来の米ナス担当者3人が、栽培管理技術や生産性を向上させるために開催しており、普及所は会の運営支援や栽培上の問題点についてアドバイスしています。

今回、収穫等の作業について話し合い、担当者が、篤農家から技術や技能を習得する機会を設けることになりました。

普及所は、(株)れいほく未来の園芸品目の売上アップと栽培技術等の向上にむけた支援をしていきます。

基盤整備事業をうまく活用することで農家の生産性をあげよう ～職場研修会開催～



地域の将来を考えると
農地を守る基盤整備は
必要

5月31日、担い手への農地の集積や生産性を向上させる農地中間管理機構を活用した基盤整備事業について学ぶことを目的に、普及所、JA、本山町、大豊町、土佐町職員20人が参加し、普及所で職場研修会を開催しました。

中央東農業振興センターの大利基盤整備課長と県農業公社の弘田チーフを講師に迎え、農業者の費用負担がかからず実施出来る農地中間管理機構関連農地整備事業の意義、事業要件、推進上の課題について学びました。

職員からは、「農業者に有利なこの事業を紹介したい」「一般的な基盤整備事業よりも町村負担が大きくなることや担い手要件の内容がよく解った」等の意見がありました。

今後は、当事業を実施予定の本山町下津野地区において、関係機関と協力して基盤整備が進むよう支援していきます。

今年もウメの収穫間近 ～伊勢川集落営農推進委員会～



集落営農推進委員会

6月4日、土佐町伊勢川集会所にて、伊勢川営農組合の集落営農推進委員会が開催され組合員8人が参加しました。

水稻の作業受託の実施状況、ウメやチョロギの栽培、梅干し加工、チョロギの収穫体験計画案について検討しました。

普及所は、ウメやチョロギの防除方法や追肥等、今後の栽培管理について指導しました。特に今年はウメの収穫適期が早まることを伝え、去年より早く収穫を始めることが決まりました。

女性組合員からは「ウメを一度に大量に収穫しても加工しきれないので、小分けに収穫してほしい」との声があがりました。

今後も普及所は、組織活動を支援するとともに、栽培管理が遅れないよう指導していきます。

夏秋トマトの病害防除にむけて ～「まもるん」を利用した病害対策実証を開始～



ミニトマト栽培ほ場

6月8日、大豊町の夏秋ミニトマト栽培農家において、病害防除コントローラ（商品名：まもるん）を利用した「すすかび病」等病害対策の実証ほを設置し、調査を開始しました。

管内では、有機JAS認証に基づくトマト栽培農家が多く、例年「すすかび病」等の病害発生が問題となっています。

このため、普及所では、栽培環境を制御して病害発生を抑制する対策を提案し、農業技術センター等の関係機関と連携して、実証することとなりました。

実証農家からは「装置の導入で病害防除の他、裂果防止の効果についても期待している」などの声が聞かれました。

今後、普及所は装置導入の効果を調査していく予定です。

GAP通信で農作業時の注意点を再確認しましょう！



腐敗事故に対する注意喚起

6月14日にJA土佐れいほく本所・大田口支所でシシトウ部会の目慣らし会が開催され、部会員28人が参加しました。普及所では「GAP通信」を作成し、夏場の腐敗果対策と農薬選択時の注意点を喚起しました。

「GAP通信」では写真や図を多く用いたり、農薬の選択や、生産履歴について具体例を用いたりして、生産者に伝わりやすいように紙面を工夫しました。

部会員からは「GAPに取り組み始めて、作業を確認する機会が増えた」「皆で市場事故0を目指して頑張ろう」という意見がありました。

普及所は、「GAP通信」を継続して発行し、園芸部部会員のGAPへの理解を深めていきます。

平成30年度普及指導計画について協議
～第1回嶺北地区普及推進協議会～



30 年度の取組計画を説明中

6 月 18 日、普及所で第 1 回普及推進協議会を開催し、農家代表や関係機関の委員 12 人が参加しました。普及所は普及指導計画を説明し、今年度の取組について協議しました。また、中山間地農業ルネッサンス事業や中央東農業振興センター基盤整備課による農地中間管理機構関連農地整備事業の説明など、地域農業振興に関する情報提供も行いました。

委員からは「担い手の確保・育成のためにも優良な農地が必要」「山間地にあった品目の経営モデルを作っていきたい」など活発な意見が出されました。

普及所は、委員から出された意見を踏まえ、地域の農業振興に取り組んでいきます。

ユズ経営計画の作成支援 ～経営の法人化にむけて～



経営改善支援のようす

6 月 18 日、普及所でユズの大規模経営を目指す農家の経営計画作成を支援しました。対象農家とは 4 月以降、5 回の面談を通じて 5 年後の法人化計画を作成してきましたが、そのなかで収穫・調整作業の省力化や出荷期間の延長などが課題として浮上してきました。

そこで、今回はメーカー等の協力を得て、選果機や貯蔵庫導入の可否について検討しました。出荷調整に要する労賃や JA への委託費と施設導入経費を総合的に勘案すると、投資効果は十分に得られますが、農家は約 2000 万円の投資額に不安を感じているようでした。

経営規模や技術レベル、近い将来の娘夫婦の就農など、計画を実現する基盤は既にできていますので、今後は、支援策の活用など、リスク軽減策も含めて、計画実現にむけたきめ細かい支援をしていきます。

夏にむけて栽培管理を確認しましょう ～「土佐甘とう」目慣らし会～



目慣らし会の様子

6 月 20 日、JA 土佐れいほく大田口支所で甘長トウガラシの目慣らし会が開催され、生産者 3 人が参加しました。

嶺北地域では今年度から初めて甘長トウガラシを栽培するため、普及所は管内・外の甘長トウガラシに関する取組や、夏期に増加する病害虫や生理障害について情報誌「あまとうだより」を作成して情報提供しました。

生産者からは「天敵を使用する際はどのような薬剤を使用すればよいか」等の質問が出されました。

普及所は、各生産者を定期的に巡回指導するとともに、「あまとうだより」を活用して栽培技術の向上を図っていきます。

【7月分】

栽培技術の向上を目指して ～「大豊とまと」の現地検討会～



熱心に観察する生産者

6月22日、大豊町の有機トマト農家を中心に組織された「大豊とまと」では生産者10人、JA職員1人、大豊町職員1人、普及所3人が参加して、生産者全員のほ場を巡回して生育状況を確認しました。

生産者の技術向上を目的として、年2回現地検討会を開催しています。普及所は園主から工夫点などを紹介してもらい、積極的に意見交換できるようにしました。

参加者らは「昨年に比べて草勢を強めに管理するようになり、生産者間での生育差がなくなった」などの声が聞かれました。

普及所は、栽培技術が向上するよう、気づきに繋がる活動を支援していきます。

梅雨明け後の高温対策をしっかりとしよう ～米ナスの目慣らし会～



園芸連から出荷規格について説明を聞く生産者

6月22日にJA土佐れいほく園芸部米ナス部会はJA本所出荷場で目慣らし会を開催し、部会員13人が参加しました。高知県園芸農業協同組合連合会からは、出荷規格の説明があり、普及所は梅雨明け後の高温対策について指導しました。

今年、定植時に地際部がくびれてしおれるフザリウム立枯病が、2戸の農家で発生しており、栽培終了時に土壤消毒を実施する必要性を説明し、理解されました。

現在、普及所では、低温期に実施する土壤還元消毒を実証しており、その有効性が期待されます。

集落営農って何だろう？～大豊町怒田で集落営農意識について啓発～



集落営農について説明する普及員

6月23日、大豊町怒田集落で集落総会が開催され、参加者26人を対象に集落営農について啓発しました。

怒田集落では高齢化によりユズの栽培管理が困難になっており、集落営農組織を作り剪定や収穫作業を協同で行うこと等を提案しました。

住民からは「草刈りが大変」や「組織があればいいが、リーダーになれる人がいない」といった声が出されました。

普及所は、今後も地元の代表者と連携し、怒田集落での集落営農の可能性について検討していきます。

3年後の嶺北地域農業の発展を目指して
～平成30年度版嶺北地域農業振興計画作成のための第1回チーム会～



嶺北地域の農業の将来像を
真剣に協議

6月27、29日に普及所において「嶺北地域農業振興計画」作成のためのチーム会を開催しました。同計画は関係機関で組織された「嶺北地域農林業振興連絡協議会農業部会」（以下、部会）が嶺北地域の農業振興を目的に定期的に作成しており、普及所は会の運営を支援しました。今回の計画は「農業で稼ぎ暮らせる経営体の育成」をテーマに、担い手の類型別に4チーム体制で検討をすすめ、第1回チーム会では支援対象や目指す姿等について、多くの意見が出されました。

今後もチーム会で検討を進め、平成30年度末の作成を目指します。

キムチを使った商品開発 ～6次産業化支援チーム会～



アドバイスを受ける出席者

7月2日、普及所で6次産業化グループ「本山町キムチ生産組合うれっこ（以下「うれっこ」）」の6次産業化支援チーム会を開催し、「うれっこ」3人、アドバイザー1人、県職員3人が出席しました。

普及所から前年度の取組と今年度の計画について説明し、「うれっこ」から「買取によるキムチの取引を増やしたい」「キムチ商品としてキムチピザの開発に取り組みたい」等の提案がありました。

6次産業化アドバイザーからはピザの商品化と営業許可の必要性や販路についてアドバイスがあり、キムチピザのレシピや試作品づくりを次回チーム会で取り組むことになりました。

普及所は、6次産業化グループや農業者が、6次産業化により所得を向上させる取組を支援していきます。

女性農業者のスキルアップを目指して ～はちきん農業大学第1回嶺北地域講座～



聴講する女性農業者

7月3日、普及所ではちきん農業大学第1回嶺北地域講座を開催し、女性農業者7人が出席しました。

最初に大塚製薬(株)の山田氏が熱中症のメカニズムと対策について講義し、女性農業者から「自宅に居ても熱中症の疑いがある場合は、どうやって判断したらいいのか」等の質問がありました。

次に普及所職員が病害虫と農薬の安全使用について講義し、女性農業者から「農薬の効果的な使い方がわかった」などの意見がありました。

また、アンケートでは両講座ともほとんどの受講者が「講座はわかりやすく理解できた」と答えました。

普及所は、今後も女性農業者の栽培技術や経営管理能力の向上を目指し、支援していきます。

夏期にむけて栽培管理の注意点をおさらいしよう！

～JAカラーピーマン部会目慣らし会～



熱心に話を聞く生産者

7月5、6日、JA土佐れいほく本所・大田口支所でカラーピーマン部会の目慣らし会が開催され、部会員19人が参加しました。

普及所は夏期の栽培管理について指導し、フザリウム立枯病、着果負担の少ない新品種の実証経過、GAPについて情報提供しました。

生産者からはひび割れの発生や害虫による食害等について質問が出され、対策を確認しました。

今後、普及所は収量増加にむけた支援に加えて、腐敗事故の発生を防ぐために、JAと連携しながら生産者に注意喚起していきます。

出荷本番にむけて ～JAミニトマト部会が目慣らし会を開催～



選果機利用時の問題点（ヘタ落ち）を意見交換

7月11日、JA土佐れいほくミニトマト部会は、出荷が本格化する前にJA大田口支所で目慣らし会を開催し、農家12人が参加しました。

会では、取引市場や販売先の担当者を交え、出荷規格や今後の販売等について意見交換しました。

普及所からは、今後の栽培管理の注意点や本年度から取り組んでいる国のガイドラインに準拠した県版GAPを紹介しました。

農家からは「GAPでは現状の問題点を確認し、改善に努めたい」、「新たに導入した品種の特性を把握し、増収につなげたい」などの声が聞かれました。

今後普及所では、実証ほ調査や個別巡回指導等を通じて、栽培管理技術向上やGAPの取組を支援します。

酒米品評会上位独占を目指して ～JA土佐れいほく酒米部会が現地検討会～



試験ほ場の生育状況を確認！

7月12日、JA土佐れいほく酒米部会は、土佐町田井で現地検討会を開催し、部会員10人が参加しました。

酒造好適米「吟の夢」の品質や収量を向上させるため、栽植密度について検討しているほ場の生育状況を皆で確認し、普及所から穂肥時期・量、病虫害防除など、今後の栽培管理について説明しました。

生産者からは「実証試験において、疎植区と密植区の違いに生育差は見られるか」「出穂時期、収穫時期はいつ頃になりそうか」などの質問が出され、活発な意見交換の場となりました。

普及所は、酒造メーカーから評価される酒米産地であり続けるため、これからも収穫適期の判断等について支援していきます。

ユズの収量・品質は平年並み？ ～現地巡回指導～



ユズの生育・着果状況

7月10日～13日に土佐町と大豊町のユズの現地巡回指導を行いました。対象は25戸で、各園地の豪雨被害や生育状況を確認し、今後の管理を指導しました。

倒木や落果等の豪雨被害は殆どなく裏年であった前年に比べ、着果は20%程多く、平年並みの収量が見込めました。青果生産者12戸は既に防除や追肥を済ませており、生育は良好でしたが、発芽期と開花期に防除が不十分な一部の園では、品質低下につながるそうか病や訪花昆虫の被害が発生していました。また、無農薬栽培の13戸については雑草被害や株の枯死に至る幹腐病や於けり類の被害が目立ちました。

園地毎に当面の管理を指導し、7月中には再度巡回して対応状況を確認します。

【8月分】

ブランド米「土佐天空の郷」のPRと意見交換 ～産地情報説明会in東京～



試食用炊飯米を配布

7月15日、東京都「主婦会館ブラザエフ」で(株)はくばく主催の「産地情報説明会」が開催され、「土佐天空の郷」からは生産者、本山町農業公社、普及所計4人が参加しました。会場に集まった全国の産地関係者、米屋に対して本山町農業公社は取組内容、普及所は本年の生育状況、今後の生育予測を紹介し、PRと意見交換等を行いました。

試食に訪れた米屋からは「食べて感動した。甘みがあってとてもおいしい」、「これならば確実に売れる」と高い評価を頂きました。

今後、普及所は、品質・食味向上のために栽培方法（施肥方法、収穫適期等）の確立を支援していきます。

作物も人も暑い夏を乗り切ろう！ ～米ナスの現地検討会～



暑さを避けて真剣に勉強中

7月25日、JA土佐れいほく米ナス部会は、本山町で現地検討会を開催し、11人が参加しました。

今年も猛暑で高温乾燥の状態が続いており、普及所はナスへの高温の影響や今後の管理について指導しました。参加者は、循環扇の利用や適期収穫による草勢維持、熱中症対策として適宜の休憩や早めの給水を確認しました。

普及所は、気象変動や農家の健康管理についての対策を啓発していきます。

安心・安全な農業をめざそう ～GAPの現地確認～



園芸部役員と点検項目を確認中

8月1・2日、JA土佐れいほく園芸部は全部会員約100人を巡回し、今年から取組を開始した国のガイドラインに準拠した県版GAPについて、実施状況を確認しました。

普及所は、「れいほく版ISO」で培った環境点検を進化させ、GAPの視点で点検シートを作成しました。猛暑が続くなか、食品安全や労働安全の項目では、腐敗果対策や作業者の安全について重点的に点検しました。

今後、普及所は優良事例などを広報誌「GAP通信」で紹介し、県版GAPが定着するように支援していきます。

経営管理能力の向上 ～農家個別面談の実施～



経営実績について説明

8月6日～13日にかけて、米ナス、カラーピーマン、シシトウ農家15戸を対象に、個別面談を実施しました。

普及所では、地域の園芸基幹品目生産農家の経営管理能力の向上と、目標所得達成にむけて支援しています。

面談では、栽培状況や生産経費の確認、経営実績を共有しながら、栽培上の問題点や今後の管理について指導しました。

今年は、定植直後から活着不良や病害虫の発生、異常気象などで収量への影響が心配されましたが、面談と指導を重ねるたびに改善が見られ、収穫最盛期を迎え、順調に生育しています。

栽培期間も後半になりましたが、今後も継続して巡回を行い、個別の目標所得が確保できるよう支援していきます。

町で団結して農地を守る！ ～本山町の農地保全の取組に関する説明会～



説明を聞く参加者

8月7日と13日、本山町役場で本山町の農地保全の取組に関する説明会が開催され、中山間地域等直接支払制度の集落協定代表農家など23人が参加しました。

町を一つの単位として多面的機能支払制度に取り組むことで、町全体の農地保全につなげようという構想について、農家の理解を得るため実施しました。

普及所はこれまでの経緯を説明し、本山町から事業概要、農業公社から構想を説明したところ、参加者からは「大賛成！よろしくお願ひしたい」「本当にそんなことが可能なのか」など様々な意見が寄せられました。

普及所では今後、本山町や農業公社と連携して集落別に説明を行うなど、町全体で農地を守ることができるよう支援していきます。

地域の伝統を伝える郷土料理を堪能 ～こてこて農家レストラン～



なべ餅を作る参加者

8月11日、大豊町ふれあい総合センターで大豊町農漁村女性グループ研究会6人が「こてこて農家レストラン」を開催し、普及所は運営を支援しました。高知市を中心に8人の参加があり、大豊町の郷土料理（なべ餅、こんちん、半夏だんご等）を皆で作って食べ、大豊町の食生活やグループの活動を知っていただきました。

参加者からは「こんちんが美味しい」「今までに味わったことがない味つけ」「高知市にも情報発信してほしい」等の意見や感想が聞かれました。

今後も普及所は、地域の伝統や郷土料理を伝承していく活動を支援していきます。

夏期の栽培管理を確認しよう ～甘長トウガラシ現地検討会を開催～



ほ場で生産者と話し合い

8月16日、JA土佐れいほくと普及所は管内の甘長トウガラシ生産者全3戸を対象に、土佐町と大豊町のほ場で現地検討会を開催しました。

普及所は高温期の栽培管理、特に尻腐れ果対策としてpFメーターを用いたかん水管理を指導しました。

生産者からは果実品質や整枝、病虫害防除について質問が出され、日頃の管理で疑問に思っている点を皆で協議しました。

今後、普及所は他産地の情報なども活用しながら各生産者の技術向上を支援します。

【9月分】

新品種の栽培管理を学ぼう！
～JAカラーピーマン部会現地検討会～



熱心に情報収集する生産者

8月29日、JA土佐れいほくカラーピーマン部会は大豊町、本山町、土佐町のほ場で現地検討会を開催し、部会員9人が参加しました。今年度から栽培している新品種について、種苗会社から特性と管理方法を学ぶとともに、7月中旬頃から50g以下の果実が増加しており、その改善策として整枝や施肥方法を中心に話し合いました。普及所は新品種と慣行品種の違いについて、生育や収量の調査結果を紹介しました。

生産者からは整枝方法について質問が出され、活発な意見交換の場となりました。

今後、普及所はJAと連携しながら新品種の特性を生かし、増収につなげていきます。

新たな農業担い手の確保 ～新・農業人フェアでの就農相談～



就農について相談

9月1日、池袋サンシャインシティで新・農業人フェアが開催され、大豊町、土佐町が相談ブースを出展し、町役場、JA土佐れいほく、普及所の4名で就農相談を実施しました。

当日は、各ブース合わせて12組、14名が訪れました。

大豊町はミニトマトと碁石茶、土佐町は米ナス、花き類、畜産の産地提案書を紹介し、普及所は県の研修事業について説明しました。相談者は具体的な就農計画のない方がほとんどでしたが、土佐町の相談ブースでは畜産での相談者が多い傾向でした。

2町は今後開催される東京、大阪の相談会にも参加する予定です。

普及所は嶺北地域への担い手を確保するため、継続して支援していきます。

秋のイベント参加に向けて ～伊勢川集落営農推進委員会～



大国鍋出店に向け
役員で話し合い

9月14日、土佐町伊勢川集会所で伊勢川営農組合の集落営農推進委員会が開催され、組合員8人が参加しました。

防除作業の受託状況、ウメやチョロギの栽培状況を確認するとともに、今年から地域の食材を使った「大国鍋」でイベントに参加すること等を検討しました。

普及所は、ウメやチョロギの施肥・防除について指導するとともに、イベントでの役割分担について、男性組合員も積極的に参加するようアドバイスしました。

今後も普及所は、栽培管理が遅れないよう指導するとともに、組織活動を支援していきます。

収穫適期を皆で考えよう！ ～特別栽培米‘吟の夢’現地検討会～



粳の熟れ具合を確認！

9月5日、本山町と土佐町で‘吟の夢’の現地検討会を開催し、生産者9人、土佐酒造職員2人が参加しました。昨年度から地元酒造会社「土佐酒造」の依頼を受けて、2町で酒米‘吟の夢’の特別栽培に取り組んでいます。

普及所から①出穂後の積算温度（日平均気温）から収穫適期の予測、②収穫後の乾燥作業の注意点を説明した後、全ほ場を回って収穫時期を検討しました。

生産者からは「積算温度から収穫適期を判断することは参考になる」、「酒米は割れやすいので主食用米より時間をかけて乾燥させることが重要である」との意見が聞かれました。

今後、普及所では地元メーカーの意向に即した栽培方法等（栽植密度、施肥量）を検討していきます。

ユリ生産技術向上に向け、産地交流会を実施



栽培状況について情報交換

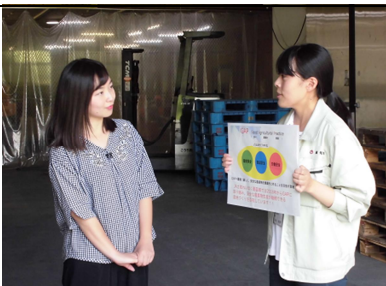
9月6日、管内の花き生産組織「土佐れいほく Confidence Flower（3戸）」は、JA土佐あき花卉部会、土佐市花卉農協と交流会を開催し、農家11人が参加しました。

10年程前から産地のレベルアップにつなげるため、交流会を開催しており、主力品目であるオリエンタル系ユリを中心に情報交換を行い、普及所では栽培技術の助言を行いました。

農家からは「出荷時期は産地で異なるが、情報交換することで毎回新たな発見がある」等の声がありました。

普及所では、今後も組織活動や、各農家の生産安定に向けて支援します。

TV番組でJA土佐れいほく園芸部での「GAP」の取組を紹介



GAPについて説明中

8月31日、JA土佐れいほく園芸部は本年度から園芸部で実践している「GAP」や「れいほく米ナスフェア」の取組を紹介するため、土佐町の米ナスほ場と出荷場でTV番組の取材を受けました。

普及所は、JA土佐れいほく園芸部がGAPに取り組むことで、各生産者が「環境保全」、「食品安全」、「労働安全」を意識して、健康的に安全な農産物を生産する産地を目指していることを紹介しました。

今後、普及所は園芸部役員やJAと協力しながら、環境点検や広報誌「GAP通信」を通じてGAPの取組を向上させていきます。

嶺北地域農業の発展に向け振興計画を作成しています
～平成30年度版嶺北地域農業振興計画作成のための第3回チーム会開催～



目指すべき経営体の姿について話し合っています

9月12日、普及所、町村、JA等で組織する「嶺北地域農林業振興連絡協議会農業部会」は「嶺北地域農業振興計画」を作成するために、普及所でチーム会を開催しました。

今回のチーム会では、嶺北地域の農業を牽引する「基幹的担い手」と地域の農業を支える「多様な担い手」を確保・育成するため、目指すべき経営体の姿等を話し合いました。

今後、品目別の課題、問題点を整理して取組方向を検討し、「振興計画」に盛り込んでいくことになりました。今年度内に農業部会で「振興計画」を策定し、3年後の嶺北地域農業の発展を目指します。

大豊とまとのメンバーがヘタ落ちの少ないミニトマトの新品種を確認



新品種について熱心に話を聞く「大豊とまと」のメンバー

9月6日、大豊町の有機栽培トマト農家を中心に組織された「大豊とまと」のメンバー7人は、大豊町のほ場でJA土佐れいほくミニトマト部会が導入したミニトマトの新品種の栽培状況を確認しました。

「大豊とまと」が栽培している品種は、ヘタが落ちやすく主枝が伸びやすいという欠点があります。しかし新品種は、ヘタが落ちにくく節間が短いことから、普及所では「大豊とまと」のメンバーに新品種を確認するよう働きかけました。

新品種についてメンバーからは「果実にはつやがあり、ヘタはひっぱっても落ちない」「つる下ろしの労力が省け、収穫作業に専念できる」「作り方次第で、さらに味を良くすることができる」といった声が聞かれました。

今後普及所では、新品種の導入拡大に向けて支援していきます。

不明確なことが明確になった！ ～第3回はちきん農業大学嶺北地域講座～



活発に質問する受講生

9月11日、普及所職員2人が講師となって、第3回はちきん農業大学嶺北地域講座を普及所で開催し、女性農業者3人が参加しました。

農業施策として「日本型直接支払制度」を説明し、女性農業者から「私達が農作業や草刈りをやってきたことが、国土の保全につながっているんやね」「夫が取り組んでことは知っていたが、初めて何をしているか解った」「他の補助事業を知りたい」などの意見が聞かれました。

また、農業基礎として「野菜の生理障害」を説明し、女性農業者から「こんな症状を見たことはある。どうしてなるかが解った」「鱗片の厚い使い難いタマネギを薄くするにはどうしたらよいか」などの活発な意見や質問がありました。

普及所は、受講者の要望を聞いて講座を増やすなど、女性農業者のスキルアップを目指して支援していきます。

(株)れいほく未来の若手職員へのアドバイス～米ナス部会の現地検討会～



樹の状況を見ながら
アドバイス

9月3日、JA土佐れいほく米ナス部会は、土佐町にある(株)れいほく未来の米ナス栽培ほ場で現地検討会を開催し、8人が参加しました。

今回の現地検討会では、若手生産者の栽培技術向上を目的に、ベテラン農家から様々なアドバイスがもらえる場を設定しました。

(株)れいほく未来の若手職員からは、「草勢を維持するために、盛夏期は過度な摘葉をしないことが理解できた。作業の段取りが付きやすくなり、楽になった」といった声が聞かれました。

普及所は今後も、JA土佐れいほく米ナス部会と連携し、若手生産者の栽培技術向上を支援します。

ユズ優良系統への更新に向けて ～接ぎ木技術の現地研修～



接ぎ木を実演

8月31日、土佐町相川のユズ園地で接ぎ木技術の現地研修を行いました。参加者はJA土佐れいほく園芸部柚子部会員の8人。

嶺北地域では県の果樹試験場が育成した弱毒ウイルスを保有した短棘系統への更新を進めており、今回はその一環として研修を行ったものです。

まず、普及所から研修目的や穂木の入手方法、具体的な接ぎ木の手順などを説明し、その後、篤農家2人が講師になって実演と参加者の実技指導を行いました。「切れるナイフで一気に切ること」「形成層さえ合わせれば台木が太くても接げる」など、みんなで教え合いながらの研修でしたので、参加者全員が理解できました。

次年度からは優良系統の穂木を必要量供給できるようになるため、こうした研修を継続し、早期更新を図りたいと考えています。

農福連携～障害者の力を借りて最高の干し芋を～



事業所職員と生産者がサツマイモの状況を見ながら打合せ

土佐町溜井の生産者は水田転換作物としてサツマイモ「べにはるか」を80a栽培し、干し芋に加工しています。10月中旬から機械でサツマイモを掘り起こし、蔓と根を切ってコンテナに入れて貯蔵します。

8月22日、サツマイモの収穫作業を障害者が受託できるよう、普及所は管内にある3つの就労継続支援B型事業所等で組織する「れいほく障害者自立支援協議会」の就労支援部会と、生産者との打ち合わせをコーディネートしました。

生産者からは「降霜前には作業を終わらせる必要があるが、作業員の確保が困難だった。障害者のモチベーションを高めるよう、労賃だけでなく、おやつも用意したい」といった声が聞かれ、障害者の雇用に期待をよせていました。

普及所は、農福連携の取組が成功するよう支援していきます。

【10月分】

大規模土地利用型法人の経営改善～新たな栽培品目の検討～



野菜の定植作業中

9月25日、本山町にある（株）カワムラファームで、JAグループの新品目導入事業を活用し、露地野菜の栽培実証ほを設置しました。

当日は、従業員とJAや普及所の職員、計6人でキャベツ、ハクサイ、ブロッコリーの苗を定植しました。普及所は勉強会の開催や定植作業を指導しました。

（株）カワムラファームが葉菜類を栽培するのは初めてですが、代表取締役は「何でもやってみないと」と常に前向きに取り組んでいます。

気象条件に左右される作型ですが、法人の新たな有望品目となるよう今後も定期巡回を行い、栽培を支援していきます。

夏秋産地を維持していくために～「シシトウ部会」現地検討会を開催～



部会の未来について協議

9月25日、JA土佐れいほくシシトウ部会は、土佐町で現地検討会を開催し、生産者12人が参加しました。

普及所からは、今後のかん水・追肥管理、青枯病対策について説明するとともに、高接ぎ木の実証状況を報告しました。

また、栽培戸数・面積が年々減少する中、産地を維持・拡大する取組について皆で協議しました。

生産者からは、「pFメータを活用した灌水管理によって増収するのであれば、部会全体で購入してはどうか」、「個々が、現在の出荷量を少しでも増加させるよう頑張ろう!」といった声が聞かれました。

今後、普及所は収量の増加、新規栽培者の確保に向けた部会活動を支援していきます。

部会の将来方向を意見交換～JAミニトマト部会が検討会を開催～



将来方向を熱心に議論

9月28日、JA土佐れいほくミニトマト部会（10戸）は、部会の方向性を話し合う会を大豊町で開催し、農家6人が参加しました。

部会は、JA合併を来年に控える中、産地の拡大に向けて、生産者や部会が問題を解決することや関係機関等へ協力を要請することについて検討しました。

普及所は、会の開催を支援しました。

農家からは「新規就農に伴い面積の拡大が予想されるので、選果・パック詰め体制の整備が必要である」、「次年度から品種を変更し、へた落ち等の問題解決をしたい」等の声がありました。

普及所は、今回示された方向性に添って、各農家の生産安定と産地拡大が図れるよう支援します。

郷土の味を伝えていこう！ ～おおとよ小学校郷土料理伝承講習会～



集中して材料を切る生徒

10月4日、大豊町農漁村女性グループ研究会5人が、大豊町立おおとよ小学校で、5年生8人に大豊町の郷土料理（「銀プロウ寿司」「こんちん」「ぜんまいの油炒め」「みょうがだんご」）を教えました。

普及所は、企画調整やレシピ等資料作成を支援しました。

女性グループ員が生徒に教えながら皆で作り、生徒からは「こんちんが美味しかった」「料理が難しいことがわかった」「おいしい料理ができてよかった」などの感想が聞かれました。また、初めて食べる生徒も多いことがわかりました。

今後とも普及所は、地域で郷土料理が受け継がれるよう支援していきます。

モヒカンネットに t r y ! ～ハウレンソウ部会現地検討会～



モヒカンネットの栽培状況を見学

10月5日、JA土佐れいほくハウレンソウ部会は、大豊町で現地検討会を開催し、6人が参加しました。

普及所は、秋冬播き栽培での栽培管理や露地でも利用できる簡易雨よけモヒカンネットでのトンネル栽培について指導しました。また、近年の出荷量が減少していることから、産地の維持拡大に向けた取組について検討しました。参加者からは、果菜類の後作栽培や水稻栽培農家への呼びかけ、モヒカンネットの利用による露地栽培面積を拡大すること等の意見がありました。

普及所は、地域特有の品目として、生産の維持や拡大について生産者と一緒に検討していきます。

農業の担い手確保・次の一手は？ ～嶺北地域農林業振興連絡協議会農業部会・農業振興計画チーム会～



担い手確保を検討するチーム員

10月12日、普及所において行政やJAで組織する「嶺北地域農林業振興連絡協議会農業部会」の「嶺北地域農業振興計画（以下振興計画）」チーム会が開催され、普及所は会の運営を支援しました。今回のチーム会では「地域の農業を支える担い手」をテーマに、集落営農組織や中山間農業複合経営拠点の「振興計画」への位置づけや、新たな担い手の確保について話し合いました。

県外からの担い手を確保するためには、多くの人に地域の農業の魅力を届けることが重要であるとして、町村の移住部署と連携した取組を検討しました。

普及所は今後とも「振興計画」の策定を支援し、嶺北地域の農業振興を目指します。

だいこくなべ

大国鍋を食べてみんかえ ～伊勢川営農組合れいほく八 祭 初参加～

はちまつり



八祭で大国鍋や梅漬けを販売

10月14日、土佐町さめうらダム直下のふれあい広場にて、れいほく八祭が開催され、土佐町の集落営農組織「伊勢川営農組合」が初めて出店しました。

組合員が栽培した米や梅を原料にしたおにぎりや梅漬けとともに、伊勢川産の野菜やシシ肉が入った具だくさんの「大国鍋」を販売しました。購入者からは「具がたくさんあってよかった」「肉をもっと増やしてほしい」などの声が聞かれました。売れ行きも良く、参加した8人の組合員も手応えを感じたようでした。

普及所は大国鍋の改良につなげるため、味や価格についてのアンケート調査を行いました。

今後も普及所は、アンケート結果を基に反省会や12月のチョロギ収穫体験イベントなど組織活動を支援していきます。

青果ユズの出荷拡大に向けて ～青果ユズ出荷検討会～



出荷検討会と
箱詰めされたユズ

10月17日、大豊町のJA土佐れいほく出荷場で、柚子部会員12人の参加を得て出荷検討会が開催されました。

部会員が持ち込んだ1kg玉をJA担当者が規格毎に選別し、これを参考に本年度の選別基準を全員で検討して決めました。

普及所は病虫害や生理障害等による規格落ちの要因と対策を説明しましたが、障害の少ない園地の管理方法等について、部会員同士で教え合う姿が見られ、有意義な検討会になりました。

青果出荷量は平成27年度には5tにまで落ち込んでいましたが、現在では30tを超えるまでに増加し、部会活動にも活気が出てきました。今後は現地検討会等の相互研鑽の場を充実し、青果出荷量の更なる拡大を図っていきたいと考えています。

目指せ！甘長トウガラシの産地化！



生産者と話しながら導入を
検討中

JA土佐れいほくでは、本年度から新品目として甘長トウガラシの栽培に取り組んでいます。栽培管理技術の向上を目指し、他産地の篤農家の技術を学ぶため、10月18日、JA津野山で開催された「土佐甘とう生産者交流会」に栽培農家2戸と、次年度以降に栽培を検討している農家3戸が参加しました。

会では仕立てや整枝の方法など、栽培管理について、他産地の生産者と意見交換したり、労力や規格等について情報収集するなど貴重な場となりました。

普及所は、甘長トウガラシを有望品目として普及させるため、今後もJAと協力しながら、技術の向上と新規栽培者の確保に努めます。

【11月分】

ブランド米「土佐天空の郷」のPR活動を支援 ～田んぼアート収穫祭を開催～



収穫した稲を皆で結束

10月21日、本山町吉延のほ場で、（一財）本山町農業公社、生産者、高知大学生など計60人が参加して、「田んぼアート」の収穫祭が行われました。「土佐天空の郷」の生産者が主体となって開催しており、「田んぼアート」の取組をSNSで発信することでブランド米をPRしています。

普及所では、稲の収穫・結束方法を指導するとともに、棚田を守る苦労と重要性について説明しました。また、収穫後には、集落営農組織「吉延営農組合」のライスセンターにて、米の乾燥・調整作業を実演しました。

参加者からは、「収穫から出荷までの作業行程を学ぶことが出来た」「苦労して作った米なので、購入して食べてみたい」といった声が聞かれました。

普及所はこれからもブランド米の販売促進活動を支援していきます。

中山間農業複合経営拠点の経営強化 ～青ネギの先進地視察～



青ネギの調製作業を視察

10月24日、（株）大豊ゆとりファーム、大豊町役場と普及所職員の計8人が、香美市で青ネギ栽培の視察研修をしました。

普及所は、視察の企画や連絡調整及び現地への案内を行いました。

当日は、作業調製場や育苗施設、生産ほ場などを視察し、園主から青ネギの経営概要について聞き取りをしました。

（株）大豊ゆとりファームの社員からは、「実際に現地を見たことで栽培方法が確認できた」といった声が聞かれました。視察後、青ネギへの関心が高まり、今後の有望品目として栽培に取り組むことになりました。

今後も、普及所は（株）ゆとりファームの経営安定化に向けて、計画作成や栽培技術の支援を行います。

今後の栽培について情報交換 ～「大豊とまと」が現地検討会を開催～



ミニトマト新品種について
情報交換

10月26日、大豊町の有機栽培トマト農家が中心となって組織する「大豊とまと（10戸）」は、大豊町で現地検討会を開催し、農家7人が参加しました。

会では、JA ミニトマト部会が導入したミニトマト新品種を視察したほか、本年度の栽培状況や今後の改善点を情報交換しました。

普及所は、新品種の状況や各メンバーの生育と土壌等の調査結果を情報提供しました。

農家からは「視察した品種は、病害や裂果が少なく味も良好である。次年度から導入したい」「本年は夏場の高温で落花も多かった。新たな高温対策も検討したい」等の声がありました。

普及所は、今後も組織活動を通じて各農家の生産安定が図れるよう支援します。

決め手はグリッドだ！！読まれる紙面づくりにチャレンジ ～職場研修会開催～



講師から学んだ内容を今後の「紙面づくり」に生かす

10月30日、「わかりやすく、読まれる紙面づくり」について基本的な技術を習得することを目的に、普及所、中央東農業振興センターの職員13人が参加し、普及所で職場研修会を開催しました。

人事課からの派遣講師を迎え、「読まれる紙面づくりにはルールがある。A4であれば縦に2～3分割のグリッドを作成するのは編集の基本中の基本である」ことや、読んでもらうための様々なテクニックを学ぶことができました。今までの紙面づくりを覆す講師の発言に衝撃を受けつつ、普及所の「GAP通信」を事例にグループ実習に取り組みました。

職員からは、「これからは縦2つにグリッドをとって紙面を作りたい」「箇条書きではなく、きちんと文章で説明する方が読まれることがわかった」等の意見がありました。

普及所は今後も職場研修を活用し、普及指導能力の向上を図っていきます。

障害者の力を借りて最高の干し芋を ～農福連携～



障害者がサツマイモを収穫

10月22～31日、土佐町溜井で嶺北地域の就労継続支援B型事業所を利用している障害者の方約15人が、干し芋用サツマイモ(80a)の収穫作業を行いました。

サツマイモの生産者と事業所の指導員が、つる切りやすき起こしといった機械作業を行った後、障害者が掘り上げてコンテナに詰めました。

作業を補助した指導員からは「利用者の適性に合わせて実習したが、10人集まれば効率的に作業できる。生産者に用意していただいたおやつが、障害者のモチベーションにつながった」、生産者からは「10人以上の人を集めるのは大変だが、障害者に来てもらえて助かった。来年のお願いしたい」といった声が聞かれました。

普及所は今回の農福連携をコーディネートしましたが、今後も障害者が活躍できる場面を設定し、農業分野での労力不足に対応します。

嶺北産ユズ玉を世界に ～輸出用ユズ玉の出荷作業～



輸出用ユズ玉の荷造り

11月1日に柚子部会員や町、JA等の関係者12人が参加し、大豊町のJA土佐れいほく大田口出荷場で、オランダ向けユズ玉の出荷作業が始まりました。箱詰されたユズは7日に関西国際空港からオランダに向けて出発。今季は11月末までに計1tを輸出することにしています。

嶺北産ユズのイメージアップを図ろうと、平成26年から取り組んだ輸出事業も今年で5年目。参加者の手際も良くなり、初日のこの日も約250kgの出荷作業を2時間程度で終えました。

普及所は検疫や殺菌、選別作業を支援しましたが、夏期の高温と秋期の降雨による日焼けや病害の発生が見られたため、腐敗防止のための選別作業を徹底指導しました。

この日もマスコミ取材があるなど産地のイメージアップにつながっているため、今後も輸出拡大への取組を積極的に支援していきます。

平成30年度の普及指導活動の進捗状況を確認
～平成30年度嶺北農業改良普及所普及活動中間検討会～



目標達成状況はどうか？

11月7日に嶺北農業改良普及所研修室で、専門技術員4人、普及指導員11人が参加し、普及活動中間検討会が開催されました。

嶺北地域の重要な課題である「次世代につなげるれいほく園芸産地の再生」「中山間地域の農業・農村を支える仕組みづくり」「持続性のあるユズ産地の育成」について、実績及び下半期の活動方法を検討しました。

普及所からは「低コストで高齢者でも取り組める高温対策の新技术はないか」「集落営農の推進における優良な農業ロールモデル活動事例を教えてください」、専門技術員からは「指導内容が見える化できており、成果が出つつある」といった質問や意見が出されました。

普及所は検討会の内容を踏まえ、目標達成に向けて普及活動に取り組めます。

小学生に嶺北地域の農業を知ってもらおう！ ～出前授業in香川～



天敵に興味津々な小学生

11月13日、香川県高松市立花園小学校でJA土佐れいほく園芸部は出前授業を開催し、小学3年生42人に嶺北地域の農業を紹介しました。生徒たちはれいほくハ菜や天敵昆虫について講義を受けた後、実際に天敵昆虫を観察し、「こうち野菜体操」で元気に体を動かしました。

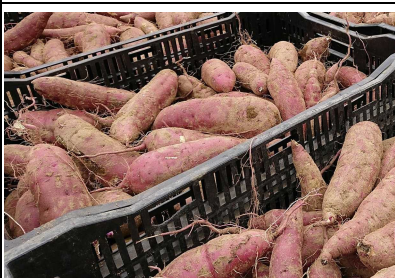
普及所はれいほくハ菜の1つであるカラーピーマンの講義と天敵の展示、説明を行いました。

生徒からは「天敵は作物には害を及ぼさないのか」「吸虫管を使うときに天敵が口に入ったりしないか」など多くの質問が出され、嶺北地域の農業に興味を持ってもらうことができました。

今後も普及所は、嶺北地域の農業について広く情報発信していきます。

地元産堆肥で生産したサツマイモで美味しい干し芋を作ろう！

～6次産業化支援チーム会～



収穫されたサツマイモ

11月19日、普及所で生産者2人、専門アドバイザー1人、普及所職員1人が参加し、6次産業化支援チーム会を開催しました。

地元産牛ふん堆肥を使用したサツマイモ15tの加工販売について検討し、ほぼ全量干し芋で販売することになりました。また、前年の1.5倍の製造になるため、OEMによるペーストでの試作販売、4月以降の長期販売にも取り組むことになりました。

生産者は「今年は長期販売の干し芋需要を想定して加工する」と意気込んでいました。

普及所は会議の進行役として取組の方向づけを行いました。今後は、長期販売の需要動向調査等販路開拓を支援していきます。

【12月分】

花の魅力を学習 ～地元小学校で花育授業を開催～



部会員がアドバイス

11月27日、JA土佐れいほく花卉部会は、土佐町小学校で3年生25人を対象に花育授業を開催しました。
授業では、部会員が栽培したユリやトルコギキョウ等を紹介した後、その花材を利用してフラワーアレンジメントを行いました。
普及所は、開催に向けた調整や当日の授業を支援しました。
部会員からは「昨年より低学年が対象で心配したが、花の魅力を伝えられたのでは」と小学生の楽しそうな姿を見て喜んでいました。
普及所は、今後も部会活動の一環として、児童や生徒に対して地域農業や花の魅力を紹介する花育活動に取り組んでいきます。

効果的なコミュニケーションを取るために ～担い手研修会の開催～



真剣に聴く参加者

11月29日、土佐町保健福祉センター「あじさいホール」で、嶺北地域農林業振興連絡協議会農業部会の研修会を開催し、指導農業者、農業法人、高等学校や町村職員など23人が参加しました。
今回の研修会は、「色々な特徴を持った生徒が将来、嶺北地域の担い手となる。担い手を受け入れる農業者の理解を深めて欲しい」と嶺北高校の教諭の話を受けて普及所が企画しました。高知大学教育研究部の是永教授を講師に迎え、「雇用者と雇用される側との効果的なコミュニケーションのとり方」について講演していただきました。
参加者からは、「考えさせられることがたくさんあった」「大いに勉強になった」と大変好評でした。
普及所は、今後も地域の担い手確保への支援を行っていきます。

地域を守る決め手はやはり集落営農 ～土佐町集落営農視察研修～



青ネギの生育状況に興味津々

11月30日に土佐町主催の集落営農視察研修が開催され、農家、関係機関17人が香美市香北町の「菰生米研究会」と「(農)ファーム西永野」で先進事例を研修しました。普及所は、研修先の選定や研修計画の策定を支援しました。
参加者は「菰生米生産組合」では、ブランド米を生産するためにも、集落営農で農地を守っていくことが重要であることを学びました。また、「(農)ファーム西永野」では、稼ぐ取組（青ネギ生産）を視察し、集落営農組織の目指すべき方向性を考えることができました。
普及所は、引き続き集落営農の組織化と活動のステップアップを支援します。

なくそう病害 ～米ナス部会反省会～



病害対策を紹介

12月1日にJA土佐れいほく園芸部米ナス部会は反省会を開催し、部会員8人が参加しました。普及所からは、今年の気象概要と病害の発生や夏場の高温によって発生が予想される病害対策を紹介しました。

参加者からは、土壌還元消毒で半身萎凋病の発病株が少なくなった経験談が話されました。

普及所は、生産の安定に向けた情報発信をしていきます。

伊勢川の山の幸でおもてなし ～伊勢川‘大国鍋’＆チョロギ収穫体験～



組合員に教わりながら
チョロギを収穫する参加者

12月3日、土佐町伊勢川集落で集落営農組織「伊勢川営農組合」による「伊勢川‘大国鍋’＆チョロギ収穫体験」が開催されました。組合員19人が運営にあたり、土佐町内外から20人が参加しました。

営農組合では地域の特産品を目指して、形が特徴的なチョロギを栽培しています。参加者はチョロギの収穫や正月飾りづくりを体験し、伊勢川の山の幸をふんだんに使った大国鍋や田舎料理ミニバイキングによる昼食を楽しんでいました。

組合長は「イベントは大変だが伊勢川のファンを増やすため来年もやりたい。チョロギの栽培も改良していきたい」と意欲を見せていました。

普及所はイベント全体の運営を支援し、今後の活動につなげるためアンケート調査を行いました。

今後も普及所は、収穫体験の反省会や営農組合総会など組織活動を支援していきます。

あなたの集落は大丈夫？ ～土佐町集落営農研修会～



行政職員とは思えない演技で
聴衆を魅了した寸劇

12月10日、土佐町あじさいホールにて土佐町集落営農研修会が開催され、農家7人、関係機関5人が参加しました。

最初に土佐町と普及所職員による、迫真の演技が光る集落営農についての寸劇を行いました。

その後は四万十市西土佐の（農）四万十川営農組合の武内幸男組合長と組合員（普及員）に講演してもらいました。西土佐は土佐町と同じく山間地ですが、法人化して農地を集積し、集落の農地の担い手として野菜栽培などに取り組んでいます。

参加者からは、「個人と組合の機械はどのように分けて活用方法したらよいか」等の質問がありました。

今後も普及所は、関係機関と連携して、集落営農の意識啓発を行い、集落営農組織化を推進していきます。

生産量10%増をめざして Let's go ～シシトウ部会反省会開催～



普及員の話に集中する参加者

12月10日、JA土佐れいほく園芸部シシトウ部会は本山町で反省会を開催し、部会員15人が参加しました。

普及所からは、生産量10%増をめざし、夏期の高温対策、青枯病防除について事例を交えて紹介しました。また、生産者数・面積の推移を示し、新規栽培者確保のために、部会員からの積極的な声掛けを呼び掛けました。

参加者からは、「気温が高くなっていく中、灌水量は見直す必要がある」「新規栽培者の定着のために、関係機関、篤農家が協力して綿密な支援を行って欲しい」との声が聞かれました。

今後、普及所は部会員の収量向上に向けて、土壌診断に基づいた基肥施用など、次作の作付けに向けて指導していきます。

甘長トウガラシ生産者と個別面談で次年度の改善計画を協議
～今年の課題を克服するぞ！～



対策を全員で協議中

12月12～14日、甘長トウガラシ生産者4人に対して、JA1人、普及所3人が土佐町、大豊町で個別面談を実施し、次作にむけた改善計画を話し合いました。

面談では「病害虫防除が遅れた」「薬剤を散布しても十分な効果が得られなかった」など、生産者から本作の課題を聞き取り、対策を協議しました。その結果、「予防散布を定期的にする」、「天敵を導入する」など、次年度の取組内容を決定することができました。

生産者からは「来年は収量を向上させるため、面談で検討した対策を実践するので協力してほしい」という声が聞かれ、次作にむけた熱い想いが感じられました。

今後、普及所では生産者の所得を向上させるため、JAと指導内容を協議し、実践していきます。

嶺北地域の農業活性化に向けて協議
～ 嶺北地域農林業振興連絡協議会第2回農業部会 ～



協議するメンバー

12月19日、普及所で嶺北地域農林業振興連絡協議会第2回農業部会を開催し、本山町、本山町農業公社、大豊町、土佐町、大川村、JA、普及所の構成メンバー14人が出席しました。

事務局である普及所から本年度事業の予算修正を提案し、承認されました。また、次年度の事業計画では、緊急・重要度の低い事業を見直し、地域の担い手確保や地元のぜんまいの消費拡大等農業振興に必要な新たな事業に取り組むことが決まりました。

普及所からは、4つのチーム会で検討してきた嶺北地域農業振興計画（案）を説明し、メンバーから再度意見を聞くことになりました。

普及所は、関係機関が更に連携し、嶺北地域の農業が活性化されるよう支援していきます。

土壌病害対策の決め手になるか?! ～土壌還元消毒実証～



土壌還元電位計の設置

米ナスの雨よけ栽培では、連作によって半身萎凋病の発生が問題になっています。そこで、平成 29 年から栽培終了後に土佐町で土壌還元消毒を実証しています。

12 月 4 日、普及所と実証農家 5 人が協力して土壌還元消毒を行いました。平成 29 年には抵抗性台木の高接ぎ苗と併せて実証したところ、半身萎凋病の発生が軽減されました。今年度は有機物投入後、支柱周辺の土壌を除き、ポリ被覆時の移動がしやすいように工夫する等作業の改善を進めることができました。

米ナスの他、ピーマンでも実施予定で、処理期間中の地温や病害の発生程度、作業工程等を調査し、有効で効率的な土壌還元消毒方法を普及していきます。

【1月分】

来年度の栽培にむけて ～「土佐甘とう」反省会～



初めての反省会

12月20日、大豊町で甘長トウガラシの反省会が開催され、生産者6人が参加しました。

普及所は今年の気象概要、問題となった病害虫や生理障害への対策について指導し、次年度から取り組むGAPについて説明しました。

生産者からは、「今年度は生理障害で悩まされた。次作は会で紹介されたpFメーターや遮熱資材の利用を検討したい」という声が聞かれました。

次年度には全生産者の規模拡大と5戸の新規参入が予定されており、さらなる栽培技術の向上が求められます。

普及所は、JAと協力しながら生産者が農業で生活ができる所得を確保できるよう、収量増加に向けて支援していきます。

本山町の農地を守っていくには？ ～高角集落への個別説明会～



農業公社からの説明

12月28日、本山町町高角集会所で農地を守る仕組みづくりについての個別集落説明会が開催され、高角集落の11人が参加しました。

本山町農業公社が、多面的機能支払制度を活用して本山町全体で新たな農地維持対策に取り組むことを説明しました。

普及所からも、高齢化が進む中で新たな体制が必要なことを伝えました。以前の説明会では、新しい体制に不安を感じていた人も今回の説明を聞き「良い制度に思えてきた」といった声が聞かれ、制度への理解が深まりました。

今後も普及所は、交流会の開催を通して、本山町の農地を守るための新しい体制整備を支援していきます。

耕作放棄田を優良園地として活用 ～ユズの就農支援～



ユズ拡大の現地指導

1月9日、大豊町柚木で就農希望者を対象に、ユズの栽培について指導しました。

対象者は「実家にある放棄田でユズを栽培したい」という意向で、現地は軽四トラックが横付けでき、運搬車が入る好条件で、既に雑草を除去し、耕うんしていました。

苗木の入手から幼木管理、補助事業の申請方法等を指導したところ、栽培面積は当初予定していた10aから20aに拡大することになりました。今後、さらに面積を拡大する意向があり、本人のやる気も十分に感じられました。

産地では担い手確保の一環として、放棄田を活用した青果生産を推進しており、広く情報提供してきました。こうした取組の成果があがり、JA園芸部柚子部員からの紹介で栽培面積を増加させることができました。今後、ユズの経営が成功するよう、重点的に指導していきます。

ブランド米「土佐天空の郷」の更なる飛躍を目指して ～本山町特産品ブランド化推進協議会講演会～



熱弁を振るう普及員

1月11日、本山町特産品ブランド化推進協議会は、本山町プラチナセンターにて、農業公社、生産者、役場など計31人が参加して、「栽培方法と品質・食味の関係」をテーマにした講演会を開催しました。

普及所からは、平成30年産土佐天空の郷の成績を報告するとともに、本年度から導入している水田センサーの活用事例として、「出穂後の積算温度を用いた‘にこまる’の収穫適期指標」「成績上位者の水管理」について紹介しました。

参加者からは、「今まで、粳の熟れ具合など目視で判断していたが、新たな判断指標が出来て参考になる」「このような取組がブランド米の底上げにつながれば」といった期待の声が聞かれました。

次作では普及所は、指標を活用して収穫適期を情報提供するなど、ブランド米の品質・食味向上に向けて支援していきます。

次年度の出荷に向けて ～JA高知県れいほく花卉部会総会～



次年度の出荷計画を協議

1月17日、JA高知県れいほく花卉部会はJA高知県れいほく支所で総会を開催し、部会員4戸・7人が参加しました。会では、部会員が本年度の反省事項や次年度に向けた改善事項を報告するとともに、出荷や部会活動について次年度の計画を協議しました。

普及所は、土壌還元消毒の実証結果や定期的に全ほ場を土壌診断した結果などを報告しました。

部会員からは、「土壌還元消毒の結果は不十分であったが、今後も土壌病害対策を検討する必要がある」「定期的な土壌診断で栽培中の硝酸態窒素の変化が良く分かった」などの声がありました。

普及所は、今後も部会活動を支援するとともに、実証ほの設置等を通じて課題解決を図っていきます。

健全な農家経営を目指して ～はちきん農業大学第6回嶺北地域講座～



演習を行う受講者

1月17日、普及所ではちきん農業大学第6回嶺北地域講座を開催し、女性農業者6人が受講しました。

普及所職員が講師となり、貸借対照表の見方、複合経営の部門・品目別の経営分析、農家経営について演習を交えて説明しました。

女性農業者からは「手元に残るお金等農家経営の見方が理解できた」などの意見が出され、簿記記帳を活かし、健全な農家経営を目指す大切さが理解されました。

今後も普及所は、女性農業者のスキルアップを目指して支援していきます。

まずは作付け前の施肥指導から ～土壌分析結果を検討～



若手営農指導員へ
土づくりについて説明

1月21日、普及所でJA れいほく営農経済センターの若手営農指導員2人を対象に、土壌分析結果から基肥の施用量を決定するための勉強会を開催しました。

雨よけハウスでは、連作によって塩類濃度が高いほ場が多くなっています。EC値が高いほ場では基肥量を減らし、腐植含量の少ないほ場では堆肥や刈草等の投入による土づくりを進めることを確認しました。

普及所はJA 営農指導員と連携し、安定した収量を確保するための施肥管理を推進します。

新たな担い手確保のため ～指導農業士との意見交換会～



活発に議論する参加者

1月22日、土佐町役場で新規認定指導農業士、土佐町、JA 高知県、普及所の計11人が出席し、意見交換会を開催しました。

普及所は、米ナスで新たに認定された指導農業士から意見交換したいと相談を受け、会の開催準備、当日の運営や就農支援制度などを情報提供しました。

会議では、嶺北地域にどのようにして担い手を呼び込むか協議し、就農へのきっかけ作りとして、小学生を対象にした出前授業を開催し、農業の魅力を伝えていくなどの意見が出されました。

新たに指導農業士が2人確保できたことで、新規就農者の受入体制は整備されつつあります。普及所は、関係機関と連携し、嶺北地域の担い手確保に向けて支援していきます。

【2月分】

青果生産のさらなる拡大にむけて ～ 柚子部会総会 ～



意見が飛び交う総会

1月24日に大豊町農工センターで、部会員11人の参加を得て、れいほく園芸部柚子部会の総会が開かれました。

普及所からは、本年度を振り返っての課題と次年度の対応策を提案し、その後、全員で意見交換しました。

本年度は、夏期の高温・乾燥や秋期の降雨等により日焼け果や病害果が多発し、加えて、価格も安かったため、販売額が前年度を大きく下回りましたが、部会員の増加や優良系統の導入、カーリング出荷など新たな取組も始まり、意見交換の場では、終始前向きな意見が出されました。

現地研修会が倍増するなど、次年度の部会活動が大幅に充実することになり、その期待に応えられるよう、しっかりと支援していきたいと考えています。

干し芋の長期販売にむけてGO! ～6次産業化支援チーム会～



長期販売商品をチェック中

1月28日、普及所に製造者1人、6次産業化アドバイザー1人、普及所職員2人で6次産業化支援チーム会を開催しました。

製造者から新たな販路での取引状況が報告され、長期間販売可能な商品サンプルが提示されました。普及所は、取引先での競合商品や消費状況について情報提供しました。

アドバイザーから県内で長期販売（4月以降）するための包装、内容量や販売先について提案を受け、それらを検討しました。

今後、普及所は干し芋の長期販売における売れ行きを把握し、売先ごとの販売計画の作成等を支援していきます。

酒米‘吟の夢’の高品質化を目指して ～反省会を開催～



飛躍を目指して真剣に聞く参加者
～既に戦いは始まっている～

1月29日、本山町吉延で生産者、地元酒造会社、普及所の計13人が参加して、特別栽培米‘吟の夢’の反省会を開催しました。

普及所からは、今作実施した新しい葉色計の活用事例と個人毎の玄米品質の結果を報告し、次作の改善点(有機質肥料の施用量、穂肥時期など)を皆で協議しました。参加者からは「連年、全量有機質肥料で栽培する場合、基肥量は減らした方が良いのでは」などの声が聞かれました。

また、会の中では酒造会社社長から「良いお酒を作るために、より高品質な酒米の生産を目指して欲しい」と原料米に対する想いが語られ、生産者と地元酒造会社の良い意見交換の場となりました。

今後普及所は、本年度の反省点を活かして生産者間の品質間差(タンパク質含量など)を無くすよう、施肥管理を指導していきます。

集落営農の推進と支援 ～嶺北地域農林業振興連絡協議会農業部会視察研修～



(農) 田野川甲営農組合
での研修

2月13日、嶺北地域の農業関係機関で構成する「嶺北地域農林業振興連絡協議会」の農業部会は、集落営農組織の視察研修を行いました。参加者は農業部会員である行政職員7人で、四万十市の(農)田野川甲営農組合と四万十町の見付権七営農協議会を視察しました。

(農) 田野川甲営農組合では法人化とそれによる変化について、見付権七営農協議会では作業受託を中心にした集落の農地保全について研修しました。参加者も混じっての意見交換も行われ、四万十市からは「集落営農の推進のためには関係機関が一致団結して同じ方向を向く必要がある」とアドバイスをいただきました。

普及所は、今後も関係機関と連携し、集落営農組織設立や組織活動を支援していきます。

協力し合って農地を守る仕組みを作る ～本山町農用地保全の取組に関する説明会及び意見交換会～



説明会で新たな仕組みに
ついて聞く農家

2月15、22日、本山町役場にて中山間地域等直接支払制度・多面的機能支払制度を活用した農用地保全の取組に関する説明会及び意見交換会が開催され、本山町内の集落営農組織の代表を含む農家15人が参加しました。

普及所からこれまでの話し合いの経過について説明後、本山町と本山町農業公社から多面的機能支払制度を活用した広域的な農用地保全の取組が示され、次年度に広域化組織設立を目指す方針が出されました。

参加者からは「草刈りなど結構無理がきている」「話し合いを始めるなら早いほうがいい」など取組に賛同する声が多く聞かれました。

普及所は、本山町や本山町農業公社とともに広域化組織の設立を支援します。

夏秋トマトの増収に向けて ～「大豊とまと」が環境制御技術の勉強会を開催～



環境制御技術を利用した
トマト栽培を視察

2月15日、大豊町の夏秋トマト生産者で組織する「大豊とまと」は、県内先進農家のトマトの栽培状況を視察するとともに、農業担い手育成センターで「環境制御技術の基礎」について講義を受け、8人が参加しました。

普及所は、日程調整や企画内容等勉強会の開催を支援しました。

参加者からは、「環境制御技術を利用した栽培での収量性の高さは驚きである。今後、夏秋作でも導入できる技術を検討していきたい」などの声がありました。

普及所では、今後も組織活動を支援するとともに、新品種の実証ほを設置するなど夏秋トマトの増収に向け取り組んでいきます。

第2回嶺北地区農業改良普及推進協議会を開催
～普及活動実績や地域課題解決などについて意見交換～



普及活動の実績について
協議

2月21日に今年度2回目の普及推進協議会を普及所で開催し、農家代表とJA、町村関係機関など11人の委員が参加しました。

会では普及所職員が平成30年度の普及活動実績及び31年度の活動方針を説明し、意見交換しました。

委員からは、れいほく園芸産地の再生に向けた収量の拡大や病害対策、酒米の生産振興、ユズ産地の維持など多岐にわたる意見や提案をいただきました。

普及所は、委員からの意見を、来年度の普及活動に活かしていきます。

【3月分】

GAPでミスは宝！ミスを改善につなげよう！ ～JA園芸部シンポジウム～



わかりやすい説明に引き込まれる参加者

2月21日、JA高知県れいほく営農経済センターでJA高知県れいほく園芸部のシンポジウムが開催され、生産者37人が参加しました。

普及所は、会の開催及び運営を支援しました。

講師の安心農業株式会社の藤井淳生氏から、「GAPは事故やリスクをなくし、守備力を高めるためのツールで、点検項目を1つでも改善し、より良い農場にすることが大切である」と説明がありました。

生産者からは「農業機械を使うときは、自分もひやっとする場面があった。今後は作業を振り返ってリスクを減らしたい」という声が聞かれました。

普及所は、今回の研修が生かされるよう、環境点検やチェックシートを見直すなど、園芸部の活動を支援していきます。

生理障害対策指導 ～ミニパブリカ栽培講習会～



栽培講習会

2月25日、JA高知県土佐れいほくカラーピーマン部会はミニパブリカの栽培講習会を開催し、栽培予定者4人が参加しました。普及所からは、昨年発生した生理障害対策について指導しました。

参加者からは、「ハウスの妻面換気や遮熱資材の利用した高温対策を徹底し、障害果の発生を抑制しよう」という意見がありました。

普及所は、高温時期の安定生産につながるよう、部会活動を支援します。

嶺北地域の元気はまかせて ～嶺北地区農村女性リーダー協議会総会～



31年度の活動計画を話し合いました

2月27日に土佐町のさめうら荘で、嶺北地区農村女性リーダー12人が参加し総会を開催しました。普及所は総会の開催及び運営を支援しました。総会では平成30年度の活動を振り返り、31年度の活動計画の作成と役員改選を行いました。

30年度には安芸地区の女性リーダーとの交流、和歌山県における全国屈指の直販所や農福連携の視察、県域のはちきん農業大学等への参加など、積極的に活動しました。「31年度も和気あいあいと活動し、新たなリーダーの育成にも取り組みたい」との意見がありました。

普及所は、これからも嶺北地域を明るく牽引する、女性リーダーの活動を支援します。

土佐町の新しい名物に！
～土佐町農村集落活性化協議会第3回ダムカレー検討会～



3人前はある大きな
スペシャルカレー
～完食しました！～

3月4日、土佐町のさめうら荘で町やJA、普及所等の25人が参加し、土佐町農村集落活性化協議会が主催する第3回ダムカレー検討会が開催されました。土佐町農村集落活性化協議会では農業分野の活性化を目指し、地元農産物（土佐赤牛、三色ピーマン等）を利用した商品開発を検討しています。

今回、これまでの成果としてダムカレーを試食するとともに、商品化する上での改善点や名称について検討しました。参加者からは「女性には量が多い」「味に飽きないようにトッピングを付けては？」などの意見がありました。

普及所は、今後も6次産業化を推進するため関係機関と連携して新商品開発を支援していきます。

嶺北地区の農業生産の拠点を守ろう ～嶺北地区集出荷場整備に係る打合せ～



産地の戦略づくりが大切

3月6日、普及所で産地・流通支援課、JA、行政担当者、普及所職員15人が参加し、平成32年度に移転整備を予定しているJA集出荷場について打合せを行いました。

事前に普及所は関係機関と日程や内容を調整しました。当日、産地・流通支援課から活用できる補助事業の概要が説明され、具体的な取組内容や今後のスケジュールについて協議しました。

生産者の意向が反映された産地の戦略や構想を練り、事業計画に反映すること、無理のないスケジュールで推進すること、成果目標を達成するため、販売量をアップさせること等の重要事項を関係機関で共有しました。

普及所は、生産から販売・流通基盤の充実・強化を支援し、生産量・所得の向上を目指します。

担い手の確保にむけて ～米ナス部会作付検討会～



作付け検討会

3月8日にJA高知県土佐れいほく米ナス部会は作付け検討会を開催し、生産者9人が参加しました。

今年度、米ナス生産者2人が指導農業士に認定されたことから、普及所は産地提案書に指導農業士や新規就農者を紹介する内容を加えることを提案しました。参加者からは「担い手を5～6人加え、販売額1億円を目指そう」と言う声があり、提案書を見直すことになりました。

普及所では、米ナスの他にもJA園芸部が活性化するように、担い手対策を支援します。

みんなでより良い農業にしよう！ ～水稻GAP勉強会を開催～



GAP を学ぶ水稻生産者

3月18日、普及所でGAPの勉強会を開催し、水稻生産者10人が参加しました。

普及所からは、GAPの内容、目的について説明するとともに、GAPの取組を自ら確認する「点検シート」について紹介しました。

GAPという言葉は初めて聞いてとまどう生産者もいましたが、勉強会後には「記録することはとても大事なことだ」「まずは高知県版GAPから取り組もう」など積極的な声が聞かれました。

今後普及所は、GAPの実践に当たり、現状の問題点に気づき、改善につながるような現地指導を実施します。

嶺北地域の未来に向けて協議 ～嶺北地域農林業振興連絡協議会農業部会～



予算案を協議するメンバー

3月19日、普及所で4町村、JA、本山農業公社、普及所で構成する嶺北地域農林業振興連絡協議会農業部会（以下、農業部会）を開催し、メンバー13人が出席しました。

普及所は、事務局として日程調整や資料を作成しました。

平成30年度事業実績と31年度事業計画案を協議し、町村の枠組みを超えて新規就農者確保等に取り組むことになりました。また、嶺北地域農業振興計画（3ヵ年計画）の改訂版を仕上げました。

普及所は、関係機関と連携して嶺北地域の農業の維持・発展を支援します。

経営の早期安定化に向けて ～新規就農者向け簿記講習会の開催～



パソコンを用いて説明

3月19日、大豊町役場で平成31年度の新規就農者を対象に簿記講習会を開催し、3人が参加しました。

普及所は町役場と連携し、講習会の開催を計画しました。初めての講習会では、簿記記帳の必要性、青色申告について情報を提供した後、実際に簿記ソフトを活用した記帳を演習しました。

講習会をとおして簿記記帳の必要性が理解され、参加者からは「複式簿記の勉強をしたい」との声が聞かれました。

普及所は、新規就農者の経営管理能力の向上と経営の早期安定化にむけて、今後も支援していきます。